

【 議 事 録 】（概要）

実施日時 令和7年8月27日（水） 18:30～20:30

会 議 名	越谷市総合振興計画審議会第4回会議	会場	越谷市役所エントランス棟 3－1 会議室
件名/議題	1 開会 2 議事 第5次越谷市総合振興計画後期基本計画（素案）について （1）部会審議結果報告について （2）第4章 まち・ひと・しごと創生 越谷市総合戦略について 3 その他 4 閉会	資料：（ ☒ 有 ☐ 無）	
出席者	<委 員>（38人） 〔1号委員〕 新井敏浩委員、飯島孝子委員（副会長）、石井秀夫委員、永福徹委員、延寿寺和行委員、奥村裕子委員、黒田登委員、小林勝委員、近澤恵美子委員、中島美三郎委員、中村昌弘委員、中村将義委員、根岸千怜委員、松崎一男委員、宮川稔一委員、森春男委員 〔2号委員〕 小倉繁委員、宮崎幸次委員、山口健吉委員、川島衛委員、関根久治委員、松苗眞吉委員、浅見昭一委員、久保田和夫委員、深井晃委員（会長）、幸田勉委員、中村孝委員、筒野貞夫委員、白井俊市委員 〔3号委員〕 狩野保弘委員、田村久平委員、戸張隆委員、福島茂樹委員、宮川進委員、向笠肇委員、山島利恵子委員 〔4号委員〕 石井勉委員、田口孝行委員 <説明員>（21人） 渡邊危機管理室長、水口広報シティプロモーション課長、小林人権・男女共同参画推進課長、野口政策課長、石原市民活動支援課長、山崎障害福祉課長、渡辺地域共生推進課長、西岡地域包括ケア課長、関子ども施策推進課長、角屋こども家庭センター長、小田保育施設課長、福岡青少年課長、中村地域医療課長、豊田環境政策課長、和田経済振興課長、内田農業振興課長、厚沢道路建設課長、篠崎下水道事業課長、戸張都市計画課長、千嶋指導課長、田嶋教育センター所長 <事務局>（9人） 総合政策部政策課：倉澤調整幹、黒澤副課長、岩崎主任、尾崎主任、大久保主任、阿彦主任、石井主事 策定業務支援委託事業者：NTT東日本株式会社（2人）		
欠 席 者	小泉智子委員、長野博一委員		
傍 聴 者	なし		

●合意・決定事項

別紙（■有 □無）

内 容
・次回会議において、これまでの審議結果をまとめた答申（案）について、審議することとした。

越谷市総合振興計画審議会 第4回会議 会議録概要

1 開会

- ・ 深井会長よりあいさつ
- ・ 事務局から部会第2回会議の議事録が確定した旨の報告

2 議事（進行：深井会長）

- ・ 傍聴者の確認（傍聴者なし）

（1）部会審議結果報告について

地域づくり・行財政部会（大綱1）	浅見部会長から報告
福祉・保健・子育て部会（大綱2）	近澤部会長から報告
都市基盤整備部会（大綱3）	川島部会長から報告
環境・防災・経済部会（大綱4・5）	中島部会長から報告
教育部会（大綱6）	新井部会長から報告

各部会長から、資料部会報告書に基づき、審議結果について報告し、質疑応答を行った。

- （委員） 大綱3の部会報告書について、アリタキ植物園の記載がないが、審議の中で話に挙がらなかったのか。また、所管課はどのように今後管理していくことを考えているのか。
- （事務局） 所管する部署が出席していないため、詳細な回答は難しい。部会の中では、直接、植物園に関する意見はなかったが、報告書のとおり、緑地の保全・創出についての意見があった。
- （委員） アリタキ植物園は世界の樹木を観ることができる場所であることを認識いただきたいと思う。
- （委員） すべての部会報告書を読むと、「取組み」や「取り組み」など、文言の統一が図られていない箇所があるため、統一した方がいい。
- （事務局） 確認のうえ、文言を統一させていただく。
- （委員） 大綱3の部会報告書に「緑地を保全、創出、有効活用するための先進的な手法」とあるが、どのようなことを想定しているのか。
- （事務局） 部会の中で、生産緑地の保全やパークPFIなどが先進的な事例として挙げられた。
- （委員） 大綱4・5の部会報告書にある「希少植物種の保護」はとてもよいことと思うが、「コシガヤホシクサ」についての記載がない。貴重な植物であることを認識していただきたいと思う。
- （環境政策課） 希少植物保全の重要性は認識しているため、部会の中で、希少植物であるコシガヤホシクサについても説明させていただいた。
- （委員） 近年の酷暑の対策として、例えば公共施設の無料開放などが有効と考える。また、大綱3に関連して、治水対策について、民間企業との連携により、立体駐車場を開放するなど垂直避難に係る検討をしてほしい。
- （委員） 大綱1について、多文化共生という言葉が出てくるが、現実的に可能なのか。宗教・思想などの難しい問題は、どのように理解を求めていくのか。
- （市民活動支援課） 総務省では、多文化共生とは、「国籍や民族など異なる人々が、互いの文化や違い

を認め合い、対等な関係を築こうとしながら地域社会の構成員として生きていく」と定義されている。本市においても、外国人をはじめとする全ての市民が、互いの違いを尊重し、安全・安心に暮らし、地域で活躍できるよう、交流の促進を図っていく。

(委 員) 国によって考え方が異なるなかで、マナーやルールを守ってもらうことは難しいと思う。外国人市民に対して、これらを周知する機会はあるのか。

(市民活動支援課) 外国人相談窓口などで、外国人の転入者に対しては、様々な支援を行っている。いただいた意見も、現在策定中の第2次多文化共生推進プランにおいて、整理していきたいと考えている。

(2) 第4章 まち・ひと・しごと創生 越谷市総合戦略について 事務局から、内容について一括で説明を行い、審議を行った。

(委 員) 138ページの「市内総生産の伸び率」について、前期基本計画と算出方法が異なっているのはなぜか。

(経済振興課) 数値については、県統計をベースとしているが、前期基本計画の例えば令和3年の時点で把握できる実績は平成30年度の数値であり、タイムラグがあるため、非常に分かりづらかった。このため、後期基本計画では、毎年度1%ずつ、5年間で5%の成長を目標として設定したものである。

(委 員) 基本目標2に関連し、越谷市における子育て専用住宅についての考えは。また、基本目標3に関連し、東京都のように、太陽光パネル設置義務は設けているのか。

(事務局) 子育て専用住宅について、建築住宅課が出席していないため、分かる範囲での回答となるが、85ページの分野別計画の大項目3-5で低額所得者や子育て世帯等の住宅確保要配慮者の入居を拒まないセーフティネット住宅について、目標値を掲げ、実施していくこととしている。

(環境政策課) 太陽光パネルについては、東京都のようにすべての住宅というわけにはいかないが、本市ではゼロカーボン推進補助金として、補助に上限はあるものの、太陽光パネル設置住宅に対し補助を行っている。

(委 員) 138ページの若年者と女性・高齢者の就職相談について、概要を教えてほしい。

(経済振興課) 就職を希望する方を対象に、市役所第三庁舎4階のブースでキャリアコンサルタントによる就職相談事業を行っている。この指標では就職相談が終了し、就職先が決定した方をカウントし、割合を算出している。令和6年度の就職相談終了者は全体で56人となり、そのうち10~30歳代の若年者が19人であった。その19人のうち、2人が就職決定していたため、現状値は10.5%となっている。また、高齢者は60歳以上の方としている。

(委 員) 就職相談者数を増やすことも大事だと思うが、取組みはしているのか。

(経済振興課) 就職希望者だけでなく、事業者にも機会を捉えて周知を行っている。また、ハローワークとの連携も行っており、セミナーや説明会の開催時に周知している。

(委 員) 基本目標3に関連して、「水遊都市」について概要を教えてほしい。また、公共下水道に関して、現在汲み取りを行っている家屋はどの程度あるのか。

(観光・文化・まちづくり課) 「水遊都市」は、地域が持つ独自の魅力や資源を活かして、地域の価値を高め、市の特徴や強みを発信するブランドメッセージである。策定に当たっては、シティプロモーションアクションプランを策定した際のワークショップにおいて、5本の一級河川や水辺、暮らしやすさやライフスタイルの充実、歴史と新しさの融合、人と人とのつながりなど、越谷市の良さとして出た意見をもとに作成した。また、策定後には動画の作成やギネス挑戦の企画等を通してPRを図っている。

- (環境政策課) 公共下水道について、担当課が不在で数値のみのお答えとなるが、令和5年度末時点で、82.1%が公共下水道を利用しており、17.2%が浄化槽、0.7%が汲み取りとなっている。
- (委員) 142ページの「公共交通の満足度」について、バス路線の減便や廃止が行われている現状をみると、満足度の向上につながりにくいと感じるが、今後予定している施策を教えてほしい。
- (都市計画課) バス路線は運転手不足が問題となっているため、新規路線の設定や既存路線の維持が難しい状況である。令和5年度に実施した地域の方々との意見交換会やアンケート調査の結果を踏まえて、多くの方にご利用いただける施策として、まずは75歳以上の方に対して、バス、タクシーの運賃補助を実施し、満足度の向上を図っていききたい。
- (委員) 144ページの「雨水貯留施設の整備」について、1箇所整備する目標となっているが、新方川、元荒川の2本の河川が記載されている意味を教えてほしい。
- (下水道事業課) 現在はせんげん台駅東口において、貯留施設の整備に向けて実施設計を行っている。また、県事業で増林地区に合築による調節池を整備している。これらの整備状況とあわせ、近年浸水被害が大きかった流域として新方川、元荒川流域を記載している。
- (委員) 越谷市の持つ自然を強みとして、観光に活かしていくとよいと考えており、水辺の話に関連して、元荒川の流域にある自治体を川で結ぶ川の駅の検討をしてはどうかと考えている。「水遊都市」をはじめとしたシティプロモーションの今後の展望についてお伺いしたい。
- (広報・シティプロモーション課) これまで紡いできた歴史や人の営みを本市の強みとして、「水遊都市」としてまちづくりに活かしていくこととなったものである。景観のみでなく、文化や人と人の交流などのストーリーを描き、プロモーションしていく。これを測る指標として、mGAP（修正地域参画総量指標）を設定し、地域の方と市外の方の交流をつくり、その総量を増やしていくための取組みを、市民の皆さんと一緒につくりあげていきたいと考えている。市内のみでなく、広域的な連携も含めて地域全体の魅力度向上につながるようなまちづくりに向け、ご意見は参考にさせていただく。
- (委員) 144ページの「雨水貯留施設の整備」について、「雨水貯留施設」と記載しているが、これに該当するものは、大規模な調節池のほか、学校貯留施設など多様な種類があるため、雨水貯留施設と一括りで記載するのは分かりづらいのではないかと。また、令和7年2月に行われた増林地区の調節池に係る説明会では、新方川流域のみを対象とする説明であったと記憶しているが、指標の説明では元荒川流域が追加されている。この説明会の内容と指標の説明に食い違いがあってはおかしいのではないかと。
- (下水道事業課) 近年浸水被害が大きかった流域として新方川、元荒川流域を記載しているが、分かりづらい表現については修正させていただく。
- (委員) 総合戦略の目的である人口減少問題の解決や地方創生に対する施策が記載されているが、これらを実施したうえで、魅力ある越谷を市民やこれから越谷に来ていただく方にPRする必要がある。これが欠けているとどれだけ総合戦略に記載された施策を実施しても、効果が現れてこないが、総合戦略ではその視点が抜け落ちていると思うため、特に若者の意見を取り入れながら、PRに力を入れてほしい。
- (委員) 143ページの「多文化共生事業の参加者数」は市が主催または共催した事業か。
- (市民活動支援課) 市民活動支援センターと市が実施する事業となる。
- (委員) 部会でも審議したが、「多文化共生事業の参加者数」について、国際交流協会の市民活動支援センターでの活動により、令和7年の現時点で目標値を超える参加者数が見込まれている。分野別計画の目標値は修正する方向とのことだったが、総合戦略の指標も修正されるということでよいか。

- (市民活動支援課) 部会でいただいた意見をもとに、現在調整しているところであり、ご指摘のとおり、分野別計画の指標が修正されれば、総合戦略の指標も整合して修正することとなる。
- (委員) ほかの委員からも指摘があったが、総合戦略の中で観光に関する内容が薄いのが気になるところである。春日部市の観光ルートなどを参考とし、若者の意見を聞きながら越谷市の観光の活性化に力を入れてほしい。
- (シティプロモーション課) 市の魅力を活かしたまちづくりを行うに当たり、一般的なツーリズムとしての観光のみでなく、市民の方々が市の魅力に気づき、魅力をつくっていくことも総合振興計画に位置付けている。大綱5において、シティプロモーションとしての観光、経済としての観光についてそれぞれ位置づけを行っているところである。
- (委員) 市公式LINEに登録しているが、登録者にクーポンを配付するなどの特典があるとより登録者が増えると思う。また、文字のみでは内容が伝わりにくいため、画像や映像としてPRできると効果的に周知できると思う。
- (シティプロモーション課) 計画の中で、SNSを用いた情報発信の指標を掲げており、時代に合ったソーシャルメディアを活用して、行政情報や市の魅力を発信していきたいと考えている。ソーシャルメディアが持つ情報の双方向性を活用し、市民の皆さんと市の魅力を共有していくことが重要であると考えており、これらの視点を踏まえ、目標値の達成に向けて取り組んでいく。
- (委員) 基本目標2の中にこども目線での取組みがないと感じている。こども計画では、こどもにスポットを当てていたため、総合戦略にもこの視点があるとよいと思う。
- (子ども施策推進課) 総合戦略は、分野別計画の指標を再掲するつくりとなっているため、主旨に合致する指標があるか改めて確認させていただく。文言等についても、全体の構成との整合を図りながら、検討させていただく。
- (委員) 140ページの「20歳代から40歳代の市民のうち、住み続けたいと思う市民の割合」における目標値の根拠を教えてください。
また、144ページの「(仮称)越谷市MaaS登録者数」について、登録しただけで活用されないと意味がないため、アンケート等で利用者の意見を聞くとともに、高齢者が使いやすいような事業にしてほしい。
最後に、144ページの「主要な幹線道路の舗装改良率」について、路面性状調査はどのくらいの頻度で実施し、目標値を算出しているのか。
- (事務局) 1点目の「20歳代から40歳代の市民のうち、住み続けたいと思う市民の割合」については、69ページの分野別計画の大項目3-1の「定住したいと思う市民の割合」のうち、20歳代から40歳代までに絞って抜粋した数値目標となっている。このため、総合戦略側の目標値は、もともとの指標に合わせているが、「定住したいと思う市民の割合」の目標値の根拠は、令和6年度世論調査において、「どちらかといえば引っ越したい」と回答した方(約12%)のうち3割を「どちらかと言えば住み続けたい」または「住み続けたい」に変えていく想定で82%としている。
- (都市計画課) 2点目の「(仮称)越谷市MaaS登録者数」については、今年度実施する運賃補助と合わせ、バス、タクシー、鉄道、シェアサイクルなど、移動の経路検索ができるような機能を備えた「(仮称)越谷市MaaS」の構築を行っているところである。制度開始後の利用状況を検証し、利用者の満足度が高まるよう検討していく。
- (道路建設課) 3点目の「主要な幹線道路の舗装改良率」については、路面性状調査は、バス通りや都市計画道路などの幹線道路を対象に、5年に1度実施している。道路整備の進捗よく状況などにより、多少道路延長が変わることはあるが、前期基本計画期間内に実施した調査をもとに算出している。
- (委員) 基本目標1は「安定した雇用を創出し、安心して働けるまちをつくる」とあるが、

これに対して数値目標として挙げている項目に違和感がある。安定した雇用環境をつくるための指標を選定すべきであって、就職決定率などはそのあとの話であると感じている。

(経済振興課) 市内総生産の指標では、地域内で生産されたものが市内で循環し、経済が活性化していくことを大きな目標として、分野別計画において、中小企業に対する支援や創業支援に取り組んでいく。そして、市内経済が活性化することにより、雇用が創出される中で、若年者や女性、高齢者などが安心して働き、ステップアップすることができるまちづくりを行いたいと考えている。

3 その他

事務局から次回の審議会について説明を行った。

4 閉会

飯島副会長より閉会のあいさつ

以上